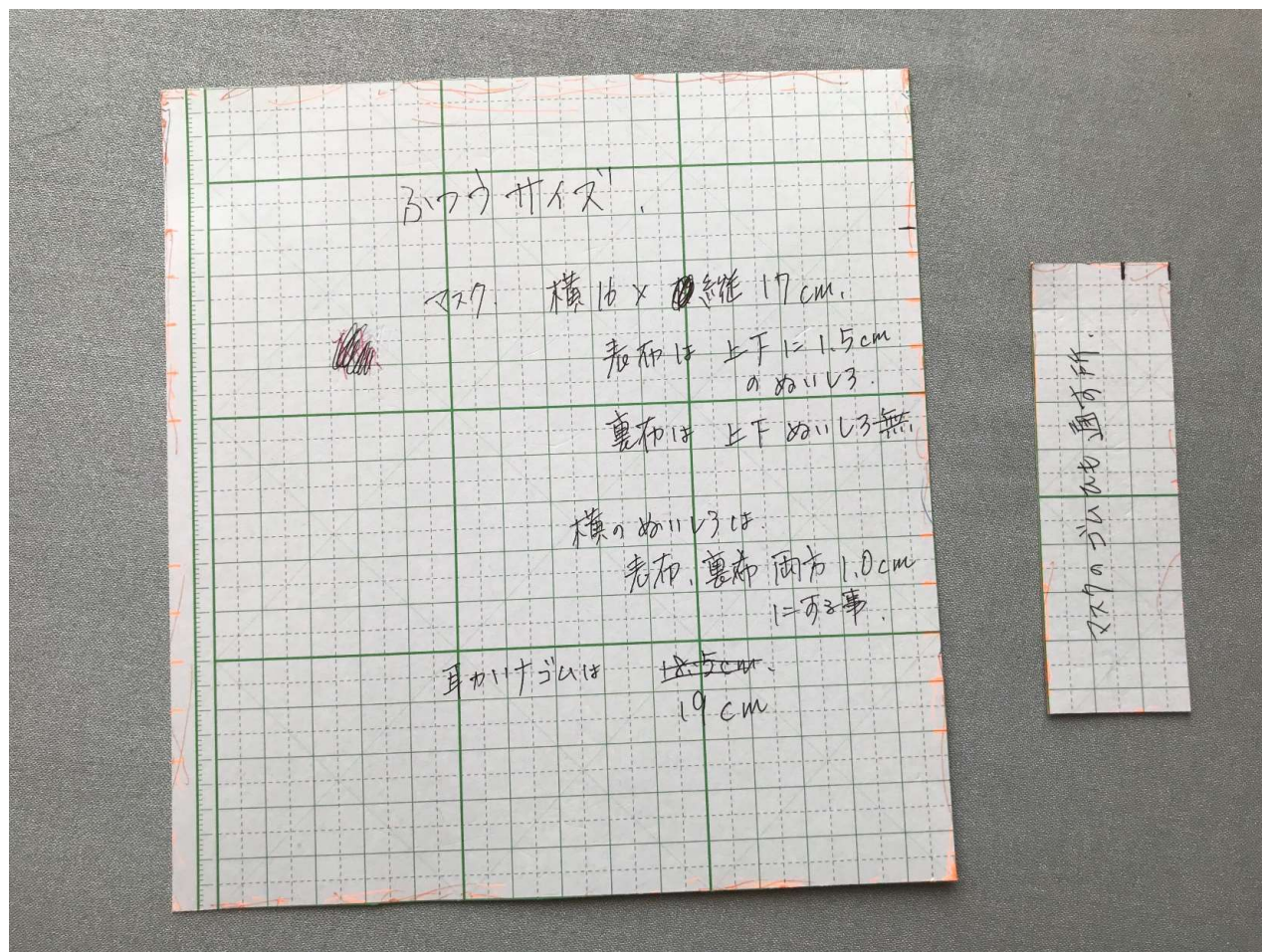


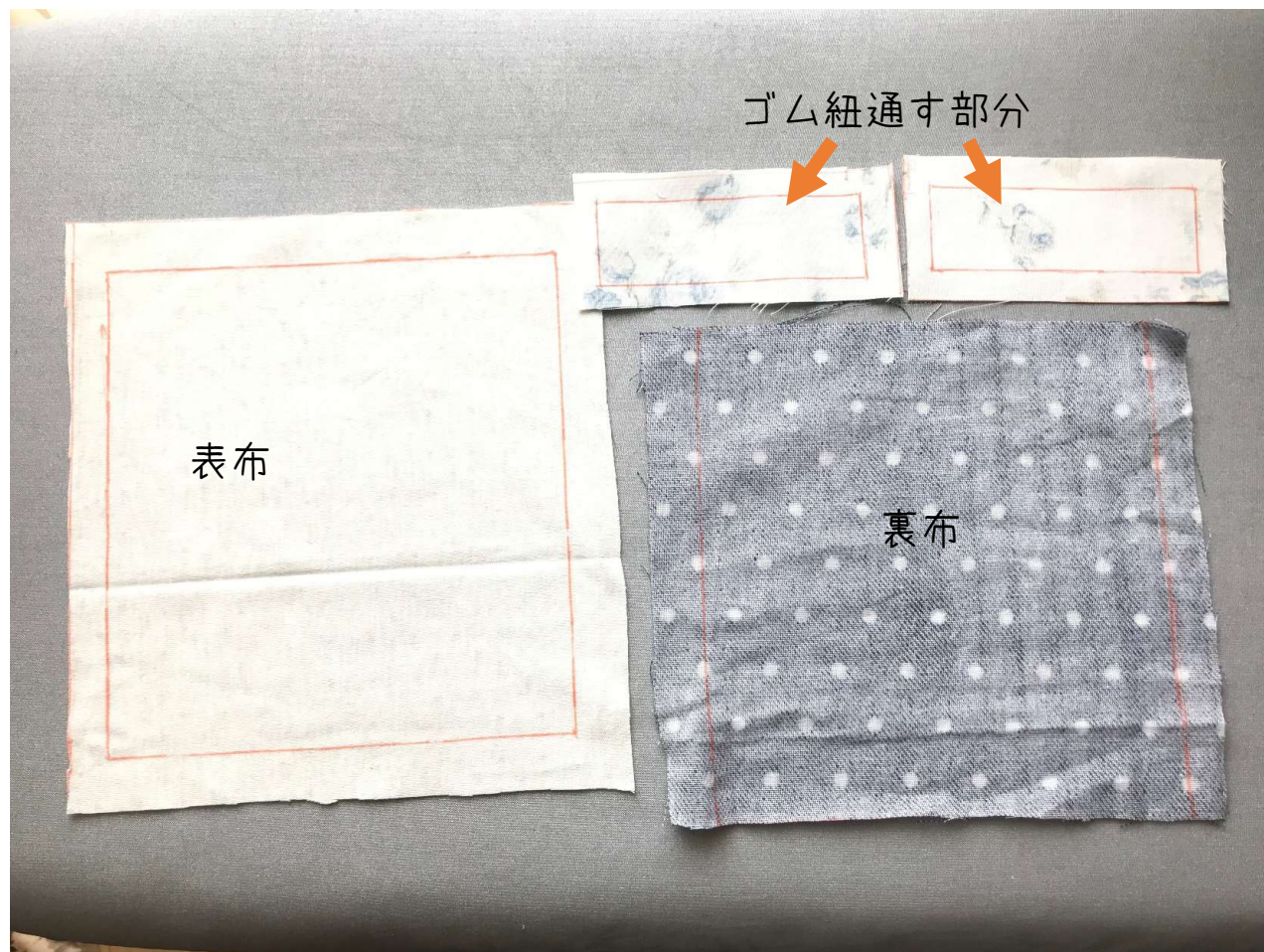


型紙は100均にある方眼の厚紙が楽。
印付けはフリクションペン。間違ってもアイロンの熱で消せる。

マスク本体の型紙のサイズ：横16cm×縦17cm
表布は上下に1.5cmの縫い代必要
裏布は上下の縫い代無。
表布、裏布両方とも左右の縫い代1cm
(裏布に使うWガーゼの消費を減らすため)

マスクのゴムひもを通す部分の布
型紙のサイズ：3cm×9.5cmちよい弱
縫い代は全辺1cm

ゴム紐は一応30cm×2本で用意し、調整すること。
※写真にあるゴム紐のサイズは直接縫い付けタイプ用



表布1枚 (Wガーゼ以外の代用品。例えば伸縮性のある化繊。綿布なら2枚重ねにすべきかも)

裏布1枚 (Wガーゼ)

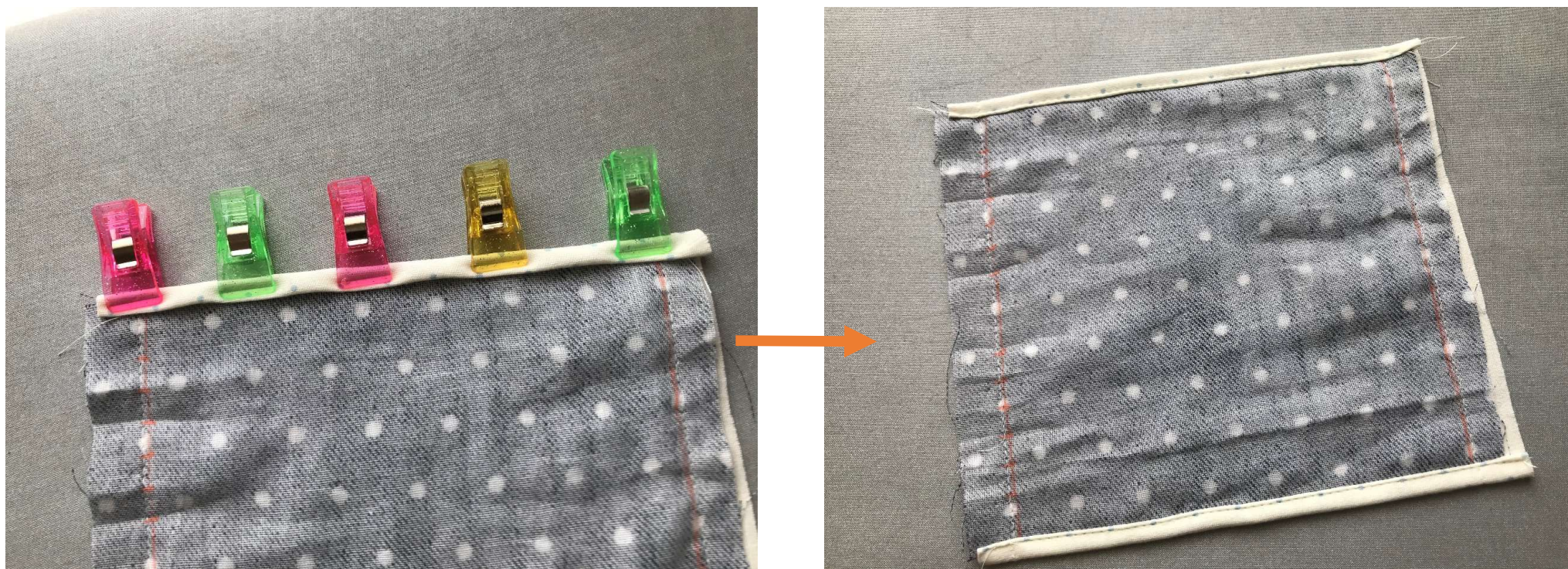
ゴム紐を通す部分2枚 (綿布で良いし、太目のバイアステープでもよい)
を用意

※Wガーゼの模様はどうせ裏にするので気にしないで良い。

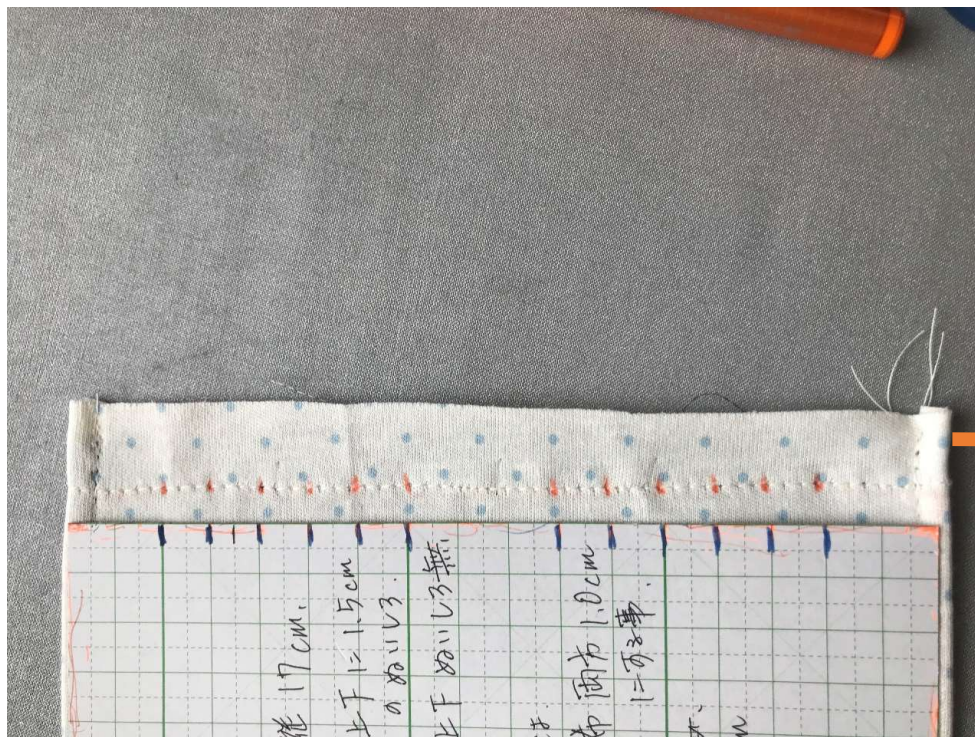


表布の裏を上にし、その上に、裏布の裏を上にして、布を重ねる。
このとき、表布の上下の縫い代に裏布が掛からないようにする。

左右の印の部分に待ち針を打ち、その1~2mm外側をミシン掛け。
この縫いラインはガイドラインとなる。（実はこのガイドラインはミシンでの仮縫い）



裏を上にしたまま、裏布の上下の断ち端を見えないように表布の上下の縫い代を三つ折りにし、ミシンを掛ける。



表を上にし、左右ガイドライン（ミシン縫い目）の上に、上から2cm～7cmのところと10cm～15cmのところに1cmずつ印をつける。

そのあと、以下の印部分を右側写真のように合わせてから折り、ダーツは裏側で中央（上から7cm～10cmの印の方向）側に倒して待ち針を打つ

- ・ 上から2cmの印と4cmの印（3cmの印で谷折り）
- ・ 上から5cmの印と7cmの印（6cmの印で谷折り）
- ・ 上から10cmの印と12cmの印（11cmの印で谷折り）
- ・ 上から13cmの印と15cmの印（14cmの印で谷折り）



ガイドラインの縫い目の上をミシン掛けする。
左右両サイドを縫うと右側写真のようになる。



ゴム紐を通す部分の布の上下の縫い代を内側に折り込んだあと、
マスク本体の裏側に裏を上にした状態で重ね、印の線を合わせて待ち針をうつ。



印の線に合わせてミシンを掛ける。
裏は左側の写真のように、表は右側の写真のようにガイドラインの内側にミシン
掛けされミシン縫い目が2本になっていること。



ガイドラインの外側の縫い代をハサミで断ち、裏側に縫い付けたゴム紐を通すところを表側に倒し、縫い代を内側に折っておく。



ゴム紐を通すところをミシンで縫う前にゴム紐を通しておき、先の2本のミシン縫い目が見えなくなるようにゴム紐を通す布を折って、ミシン掛けをする。



完成品の状態はこちら。左が表側、右が裏側の状態。
あとはゴム紐を縫い繋ぎ調整して終わり。縫い繋ぎ部分はマスク本体のゴム紐を通す部分に隠す。
ゴム紐が太いと耳が痛くなる場合は、サージカルマスクのゴムを流用しゴム紐に縫い繋ぎ、輪っかを作る。これでサージカルマスクのゴム部分を耳に掛けて使用することも可能。この辺は臨機応変で。